

190. 子宮筋腫に伴う貧血の成因の鉄代謝による考察

国立東京第2病院 内科

与那原良夫 福井谷祐一 猪 芳亮
川戸 正文 伊藤 宗元

子宮筋腫に伴う貧血は、腫瘍形成、月経異常およびこれらの生理的現象の調節を介して、ホルモン作用が鉄代謝に間接的な影響を及ぼすものとされる。また概念的には従来より失血による鉄喪失によるものと考えられているが、その成立機序についてはなお不明な点が多い。われわれは、本貧血成因解明の一助として鉄代謝の面より検討し、いささかの知見を得たので報告する。

子宮筋腫例、対照として婦人科的に異常のない鉄欠乏性貧血および正常例を用い、 ^{59}Fe -globulinate $10\mu\text{Ci}$ 静注による ferrokinetics ならびに筋腫子宮部、仙骨骨髓、肝、脾、側頭部における表面計測を行ない、さらに筋腫組織のオートラジオグラムによる検索も行なった。

今例において PID の短縮を見たが、PITR は正常域を示すもののが多かった。

正常対照例では子宮部と側頭部の放射活性にはほとんど差を見なかった。鉄欠乏性貧血例では肝、脾のそれとほとんど同程度で著しい変動を示さなかった。不正出血を伴わない筋腫例では鉄欠乏性貧血例と全く同様のパターンを示したにもかかわらず、筋腫子宮部の放射活性の増加が特異的であった。過多月経を伴う症例や持続的出血を見た症例の筋腫子宮部の放射活性は何れも著しい高値を示した。切除標本のオートラジオグラムによる検索では、明瞭な ^{59}Fe の集積像は見られなかった。

以上の結果より、過多月経を有しないにもかかわらず鉄欠乏性貧血を示す症例の多いこと、筋腫子宮部の表面計測で放射活性が造血臓器のそれよりもはるかに高値を示すことなどの特異的な所見を得た。しかしながらオートラジオグラムにおいては、筋腫局所に ^{59}Fe の集積像を確かめ得なかった。これらの諸点から、子宮筋腫に伴う貧血の成因に、筋腫子宮の鉄抑留能の存在が一部関与する可能性のあることを示すものと思われる。

191. 若い女性の鉄吸収率

名古屋大学 放射線科

齊藤 宏 田宮 正 近藤 智昭
三島 厚
名古屋第一赤病院 内科 吉川 敏
放射線科 河村 信夫

目的：

正常人と思われている日本人の若い女性では鉄欠乏性貧血が約 $\frac{1}{3}$ に潜在することがわかった。そのため、正常人男子の鉄吸収率よりも高い値が予想される。本研究は正常と思われる女性の鉄吸収率を明らかにするため行った。

材料ならびに方法：

正常と思われる学生で20才から22才の日本人女性10名を対象とし、アメリカ人女性8名の成績と比較した。また正常人男性の値とも比較した。耳血その他も測定した。

^{59}Fe $5\mu\text{Ci}$ を、硫酸鉄の形のキャリヤー 4 mg と共に経口投与して全身計数装置を用いて ^{59}Fe の全身残留率を測定し吸収率とみなしした。

^{59}Fe 鉄液の経口投与前は絶食せしめ、投与後は2時間食事をひかえさせた。当日就床前に緩下剤を投与した。

結果：

耳血の結果 Hb が $13\text{g}/100\text{ml}$ 以下が2名、Ht が 38 以下が3名いた。UIBC, TIBC は高い傾向が全例でみられた。鉄の吸収率は全員高く、50%が最高、15%が最低値で、平均29%であった。網赤血球数は1名のみ異常に増加していた。以上から1名は明らかな鉄欠乏性貧血であったが、他の対象には潜在性の鉄欠乏が考えられた。

考按：

鉄欠乏性貧血は鉄のロスの多い女性に多くみられるが、正常と思われている若い女性には鉄欠乏性貧血あるいは潜在性の鉄欠乏状態があると考えられる。米国人女性平均12%，正常人男性平均9%に比し、若い正常と思われている女性が29%で、約2.4倍（米国人・女）3.2倍（男）に相当し、鉄吸収が亢進していたことから、鉄のロスが同じであれば食事の鉄不足がその原因として考えられる。